



「世界の新種」に奄美のフグ

⑥砂地に模様を作るアマミホシゾラフグ(ミステリーサークルと呼ばれるアマミホシゾラフグが作った産卵巣(水中写真家の大方洋二さん提供)

ル」と呼ばれる。奄美大島周辺に分布し、同博物館の松浦啓一名誉研究員らによって2014年、新種と報告された。

トップ10は毎年、米ニューヨーク州立大が発表。世界の研究者で構成する選考委員会が、年間に約1万8千種類報告される新種の動物や植物、菌類などの中から、極めて特徴のある10種類を選んでいる。

海底の「造形家」

国立科学博物館は21日、鹿児島県奄美大島沖の海底の砂地に謎の円形模様を描くフグの「アマミホシゾラフグ」が、生物学の研究者が選考する「世界の新種トップ10」に選ばれたと発表した。日本から報告された新種がトップ10に選ばれるのは初めて。

このフグの雄は、雌が産卵するために砂地に直径約2センチの巣を作り、複雑な構造から「ミステリーサークル」

2015年5月22日 夕刊

①「世界の新種トップ10」に選ばれたのは、何というフグでしょうか。

[]

②このフグが海底の砂地に円形模様を描くのはどうしてでしょうか。

[]

③この円形模様の直径は、どのくらいの長さでしょうか。

[]

年 組 名前

(小学校高学年 理科・総合、中学校 理科)